



## 研究・研修報告書

令和6年5月1日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派  
代表者氏名 伊藤 皇士郎

研究・研修の結果を報告します。

### 記

#### 1 参加議員

伊藤 皇士郎

#### 2 日程

令和6年4月25日(木)

令和6年4月26日(金)

#### 3 研究・研修名

防災と議員の役割

#### 4 主催者

公益財団法人 全国市町村研修財団  
全国市町村国際文化研修所

#### 5 会場

全国市町村国際文化研修所

#### 6 受講の目的

議員として防災、災害時にできることを学ぶため

#### 7 主な内容

第1部 過去の災害の教訓をこれからの活かすために

第2部 平時の防災と議員の役割

第3部 災害時における議会の対応と取り組み

第4部 災害時、復旧・復興期の議員の役割

#### 8 所感・提言・課題等

防災、災害時について小牧市議会ではBCPを作成したり、緊急時の連絡手段の取り決めを行うなど他市町に比べても着実に準備を進めていると思う。

しかし、いざ災害が起きた際に議員一人一人が求められる行動についての意思統一はまだできていないのではないかと思う。

現場に急行して救助を行うのであれば、消防団や防災リーダーなどとして地域に所属することを必須にした方がいいとも思うが、それは果たして議員としてのもつ力を最大限に活かすことができるのか疑問であった。

この疑問の答えを探すために今回の研修に参加した。

参加をしていた全国の市区町村議員も同様の悩みを抱えていたため、議論も活発に行われた。

研修を通じての結論として、議員の強みは

①ネットワークの広さ、強さ

②執行部とのパイプ、県・国とのパイプ

この2つを駆使し、市民の支援をすることが求められるということになった。

そのためには日頃から地域の住民の方達とのコミュニケーションが欠かせず、防災訓練などでは地域住民と災害本部を繋ぐための予行練習も必要になってくるのではないかと思う。

なぜなら、適切な情報共有をする訓練をしておかなくては議員も的確な動きがとれるという保証はないからである。

また一方で、議員の強大な力を災害時に行政側にぶつけてしまうと迅速な対応に遅れが生じる可能性があるため、「災害時に議員がしてはいけないこと」のマニュアル化をする必要があるという結論にもなった。

例えば、いち早く自身の地元を優先するように強い要望をすることや、対応の遅れに対して叱責をすることなどである。

非常事態中には、行政のサービスを止めなくてはいけないことも多々発生するためそのことについての追求はするべきではないし、議員は事前に把握をしておく必要性を強く感じた。

災害はパニックになってしまう人が多いからこそリーダーの存在が欠かせない。

もちろん区長や消防団、防災リーダーなど普段から地域に密接して準備をしてくださっている方々もいるため、非常時に議員がどのような役割を地域で担っていくのかしっかりと話し合いをしておく必要性を感じた。

理想をいえば、リーダー格すべての役割をこなせる準備をしておくことが良いと思う。そのために、より一層学ぶべきことは多々あることを感じた研修だった。